

猪苗代湖における白鳥渡来に関する観察記録

1974～1975
猪苗代湖の白鳥を守る会

白鳥渡来の記録 1974～1975

月日	渡来		飛去	累計	分			備	註
	渡来	飛去			コハクチョウ	オオハクチョウ	アメリカコハクチョウ		
10.14	4			4	4				前年より5日遅い。
17	6			10	10				
21	42			52	52				
25	134			186	186				
26	57			243	243				
29	43			286	286				
11.3	24			310					
5	82			392	387	4	1		アメリカコハクチョウ初認
7	115			507					
10	1			508	485	22	1		
12.29	1			509					
1.12				509	486	22	1		1/16磐梯町第一発電所ダムで死体(コハク幼鳥)収容
22	27			536	513	22	1		
2.9	165			701					3/1 三城潟 3/8 白鳥浜各1死体収容
3.9		234		467	444	22	1		3/10 養老島1 鳥獣保護センターへ
15		7		460	437	22	1		3/末川崎浜で白骨死体(未確認情報)
29		26		434	427	6	1		
4.3	8								4/10 保護中のコハク幼鳥1放鳥
13		86		356					
17		72		284	278	6	0		4/17 PM 5.00 飛び立つ、アメリカコハクは、この中に含まれている。丹波コース
19		142		142					
19		112		30					
20				142					
21		111		31					
21		28		3					
23		3							前年より5日遅い
24		3		0					早朝飛立つ 大川・阿賀川合流点1 猪苗代湖長井川河口2

1. 初認

10月14日 AM 6.00 三城潟餌付場近
コハクチョウ 4羽 (成鳥2・幼鳥2)

2. 渡来(初認)より飛去までの異動状況、付表のとおり

最後の3羽のうち、2羽は檜原湖北西岸長井川河口に着水

5月11日 PM 1.30 飛去。1羽は4月24日朝坂下町只見川合流地点附近で発見。5月30日なお遊泳していることが報告されている。

3. アメリカコハクチョウについて

アメリカコハクチョウは、今シーズンも見られ、3回目である。11月5日初認。4月17日夕、吾妻コースをとって飛去した72羽の群と行を共にした。

4. 雪の状況

積雪の量は前年に比し多くはないが、天候は意外に悪く、且つ低温の日が続き、最低-19.5℃を記録する等、氷雪の張りだしが300mに達した。

この凍結は「ハクチョウ類」棲生の絶対条件である餌場を完全に奪っている。

5. 斃死鳥と保護したものについて

(1) 1月16日磐梯町第一発電所ダムで、コハクの幼鳥1羽、3月1日三城潟、3月8日白鳥浜でコハクの幼鳥各1羽、3月末川崎浜で、白骨死体(未確認情報)1羽。

(2) 3月10日衰弱のため放浪していたものを、鳥獣保護センターに収容加療、快復したので4月10日黒い頸環をつけて放鳥した。これ

は、4月19日飛立ち一旦戻ってきた群に入っており、4月21日姿を消している。

6. 給餌について

(1) 白鳥浜、過保護にならぬよう、また、餌料温存の意味も含めて極力給餌を控えていたが、10月30日あまり餌をネダル様子なので1羽当たり約20g宛を給与した。これは、今シーズンを通じてここに足を留めさせる意図をもってのことである。

その後、11月末となり積雪量の増加と湖水面の低下に伴ない、1羽当たりの量を30gを限度とし給与を4月2日まで続けたが、善意による餌が底をつき4月22日まで20日間圧扁麦を購入給与した。

7. 給餌の結果

餌の種類は、屑米、シイナ、雑穀類、パン屑、茶がら、密柑の皮、残飯、圧扁大麦(穀つき)等で、総量約15トンの内きは屑米で多くはその他でこれは低カロリーのものであり、期間全般を通じて辛じて生命を維持できる程度のものでしかなかった。

故に、茶がら、密柑の皮について従来から論議されていたものであるが、何れも採食したことは事実であり、ハクチョウ類栄養保持の状況は、例年に比し低劣であった。

8. 反省事項

- (1) 餌料の集荷方法強化と量の確保
- (2) 餌付場の凍結防止対策
- (3) 野鳥保護を基調とした観察(観光)施設